



3

【飛騨教育事務所研修校指定（平成30年度～）】

自ら学び、自ら考える、子ども一人ひとりが主語になる楽しい授業で力をつけます

白川郷学園では、義務教育学校ならではの教育課程の編成、教員配置や教育環境などを強みに、子どもたち一人ひとりが学びの主体者として楽しく学んでいます。願いの実現や課題の解決に向かって挑戦し、粘り強く取り組むことを継続することで、未来社会を切り拓く基礎となる学力を身に付けています。

前期、後期課程同一の週時程を運用し、落ち着いた中で学習をしています

前期、後期課程間で教職員の移動ができることから教科担任制の実現を可能にしたり、全校が落ち着いた環境下で学習ができるようにしたりする利点を生かすため、校内の時間割（ダイヤ）を統一しています。

前期課程では45分授業を基本とし、その後5分間を復習や仲間や先生に質問する時間とするなど、柔軟に活用しています。

	月・火・木・金	水
朝の会	8:00~8:10	8:00~8:10
1時間目	8:15~9:05	8:15~9:05
2時間目	9:15~10:05	9:15~10:05
書写タイム	10:05~10:20	10:05~10:20
3時間目	10:25~11:15	10:25~11:15
4時間目	11:25~12:15	11:25~12:15
給食	12:15~13:00	12:15~13:00
昼休み	13:00~13:20	13:00~13:20
掃除	13:25~13:40	
5時間目	13:50~14:40	13:25~14:15
6時間目	14:50~15:40	14:25~15:15
みがき	15:45~16:00	
帰りの会	16:05~16:15	15:15~15:25
下校準備	16:20	15:30

前期課程からゆるやかに「教科担任制」を進めています

それぞれの教員の教科専門性を生かした指導によって、各教科における深い学びを生み出すために、教科担任制を推進しています。

低ブロック（小学校1～4年生）では、配置可能な教科で実施し、学年が上がるごとに緩やかに拡大し、後期課程では教科担任制を完全実施しています。



教科の空気が漂う空間で授業をしています

主に後期課程では、全教科教室ではなく、各教科の教室にて授業を行っています。教科特有の備品（学習用具）や学び方、学習の足跡等の掲示物により、教科の空気を感じながら学びを深めています。



ICT 機器を活用しながら授業をアップデートしています

校内Wi-fi環境下で一人一台タブレット端末を活用した授業改善を進めています。全教科で導入しているデジタル教科書や教員が独自に作成した教材を各教室備え付けのプロジェクターで黒板に投影して授業を進めたり、学習支援ソフト（ドリルアプリ）を使った基礎的・基本的な内容の定着、授業支援ソフトを使った協働的な学びを行ったりと、授業改善を加速させています。



「みがき」の時間で自分の課題を克服しています

学力向上に向けて、児童生徒一人ひとりが自己を見つめ、自分の苦手を克服するために、毎日帰りの会前の15分間、自分の計画に従って学習に取り組めます。毎週金曜日に行っている小テストの結果から、子どもたちは翌週の学習計画を立てて取り組めます。



1年生から触れ、親しむ英語学習を行っています

白川郷学園では、特別の教育課程を編成し、1、2年生では「触れる、楽しむ」英語授業を年間35時間、3、4年生では「慣れる、親しむ」英語授業を年間35時間（5、6年生で年間70時間、7～9年生では年間140時間）実施しています。

このことは、白川村の魅力を世界に発信したり、国外からの来訪者と主体的にコミュニケーションを図ったりすることができるグローバル人材の育成にも寄与しています。



スピーチコンテスト、英語検定等の各種検定に積極的に参加しています

自分の力に合わせて、希望する児童生徒が年2回の英語検定にチャレンジしています。また、令和6年度は、飛騨地区のスピーチコンテストに3名の生徒が出場しました。

